

あえてメールと電話

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



私はメールを送る時、相手と自分の距離感に応じて、あえて電話をかけるようにしています。

「昨夜メールを送りましたので、お時間のある時に目を通してください。何かご不明な点があればいつでもお電話ください」

特に、新たな人間関係を構築しようとする相手には心掛けるようにしています。

私たち医療従事者は業務柄いつでも電話を取れるわけではなく、そのため、比較的メールやメッセージを得意としています。また、若い世代のコミュニケーション手段はメールやSNSが主流となっています。相手の都合にとらわれないため効率が良いとされ、特に、人間関係が既に構築された相手にはとても有効な手段です。しかしながら、表情を読み取ることが難しかったり、細かいニュアンスが伝わらないことによる誤解が生じることも多々経験します。また立場が上になればなるほど、他方から関係団体のメールが数多く届き、案件によって詳細な内容までは把握していない場合も多く、丁重にメールに目を通していない可能性もあります。メールを送る側にとっては重要案件でも、受け取り手にとっては数多くの案件の一つにしかすぎないという場合もあるということを忘れてはなりません。とはいえ、自分にとっては重要な案件ですから、確実に漏れがないように、メールの後に電話をするのです。

技師会の業務では、たびたび埼玉県庁の医療整備課と推薦書や申請書についての打ち合わせを行います。メールで全て済ますことも可能なのですが、私はあえて、メールを送った後に「〇〇の件でメールを送りましたので、何かあればご連絡ください」と電話を1本入れるようにしています。

時には電話で冗談交じりのニュアンスで会話が弾み、予想外に物事がスムーズに進むこともあります。

さらには同業者以外の方とは短期間でしっかりとした人間関係を作ることが求められるため、必要に応じてあいさつがてらに直接会い名刺交換をするようにしています。それは直接会うことや、電話で話すことは最も有効なコミュニケーション手段だからです。これまで、私が本会会長になってからこの手法で人間関係が悪くなったことは一度もなく、全て良い結果が出ています。相手は、わざわざ会いに来てくれたり、電話をもらえましょうというものですし、何よりも記憶に残ります。

「昨日送ったメールの件ですが・・・」

この一言が相手の心を動かし、人脈を広げます。そして、その人脈は、必ず、人生の助けになるはずです。